

# 小水力発電 中津川で実証事業

## 飛島建設 オリコンサル 既存水路を活用

飛島建設とオリエンタルコンサルタンツは、岐阜県中津川市で小水力発電パイロット事業を開始する。計画段階から中津川市が支援するとともに、両社がそれぞれの強みを生かし、設計・施工から完成後の発電事業までを一括して手掛ける。

企業、地域住民、行政が連携した再生可能エネルギー事業の新たな活用事例の構築を目指す。両社は12月の発電所完成イメージの完成・運転開始に向けて今月着工した。完成後は事業性の検証作業を行う。

中津川市付近は、起伏の激しい山間地で、小水力発電に適した水量と落差がある河川や水路などが多い。岐阜県は水力発電の潜在的な実現可能性が高いとみて、パイロット事業の実施を決定。中津川市落合平石地区で大正時代に造られた農業用水路の未利用の落差部分を

分を発電用導水路(延長918m)として活用する。計画によると、出力136kWの横軸クロスフロー型水車、発電建屋(建築面積54平方m)などを整備し、横軸三相誘導発電機などを据え付ける。経年劣化が進んだ水路や取水設備の改修・更新も行い、農業用水路としての利便性の向上も図る。



建設・運転費用は飛島建設とオリエンタルコンサルタンツが折半。発電した電力は固定価格買い取り制度を利用して全量を中部電力に売電し、資金を回収する。事業期間は15年12月の運転開始から20年間。

既存の農業用水路を小水力発電設備の導水路として活用することで、建設コストを抑えるとともに、劣化した箇所を入れ替えや補修により将来の農業用水路の維持管理費用も軽減する。運転費用のうち、清掃や点検など維持管理の

の一部は地区に委託する。